

第1章 授業評価に期待される効果と課題

－「授業評価に関するアンケート」から－

1 調査及び調査結果の概要

栃木県総合教育センターでは、授業力向上のための方策を探ることを目的として、平成の19年5月から6月にかけて、「授業評価に関するアンケート」を実施しました。

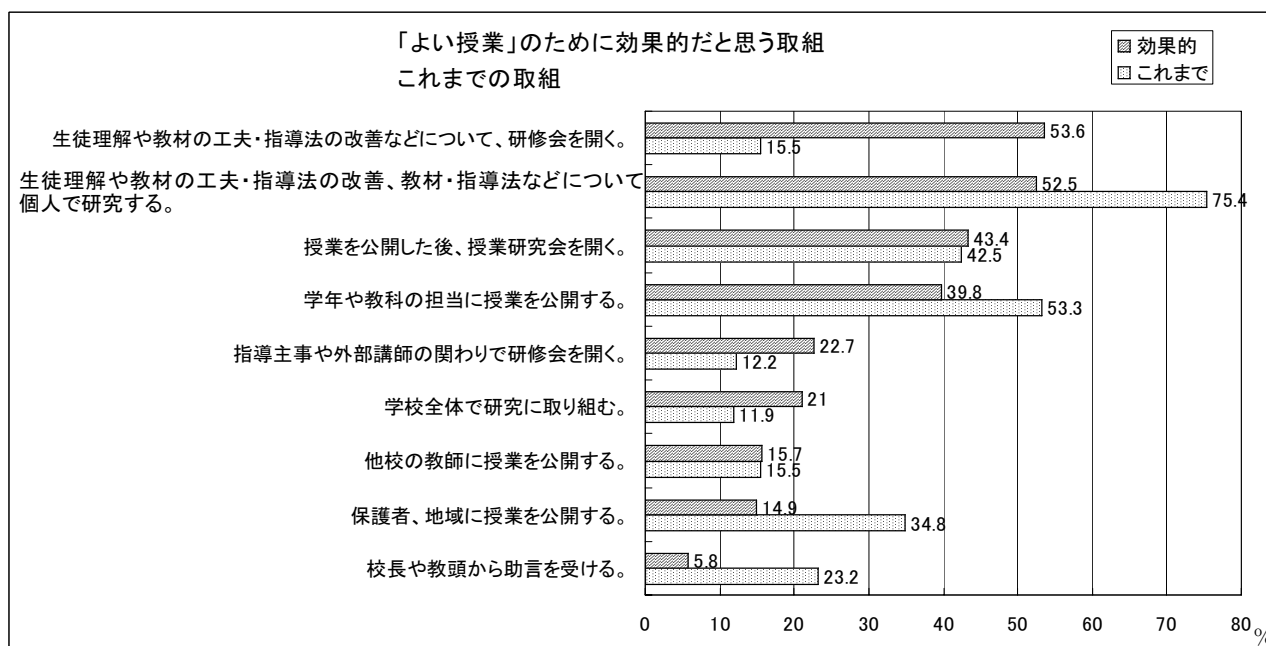
調査は、本研究の調査研究協力校4校の教員と、平成19年度の、教職5年目、教職10年目、教職20年目の各研修受講者を対象に実施し、合計362人から回答を得ました。

調査結果から、次のような事柄が明らかになりました。

「よい授業」のための効果的な取組は？

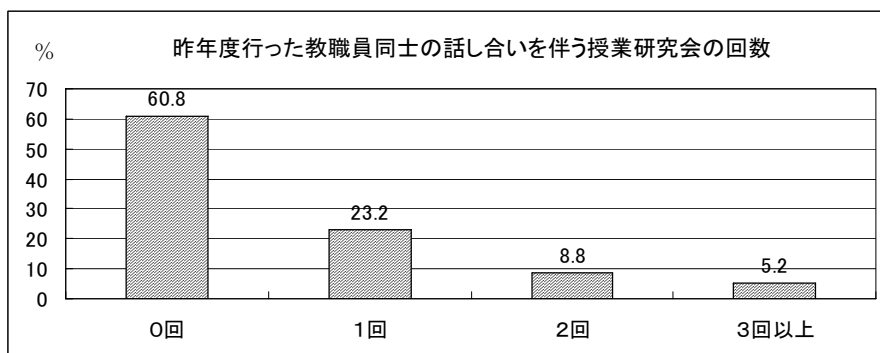
★「よい授業」のための効果的な取組は、**研修会、授業研究会、授業公開。**

⇒しかし、昨年度、約6割の教員は、教職員同士の話し合いを伴う授業研究会を行っていない。



「よい授業」のために効果的だと思う取組として、「生徒理解や教材の工夫・指導法の改善、教材・指導法などについて個人で研究する。」の回答が多くありました。また、このことは「これまでの取組」として、最も多い回答でした。

この個人的な取組以外では、「生徒理解や教材の工夫・指導法の改善などについて、研修会を開く。」「授業を公開した後、授業研究会を開く。」「学年や教科の担当に授業を公開する。」の回答が上位にあり、他の教員との関わりにおける取組が、「よい授業」のために効果的であると考えていることが明らかになりました。

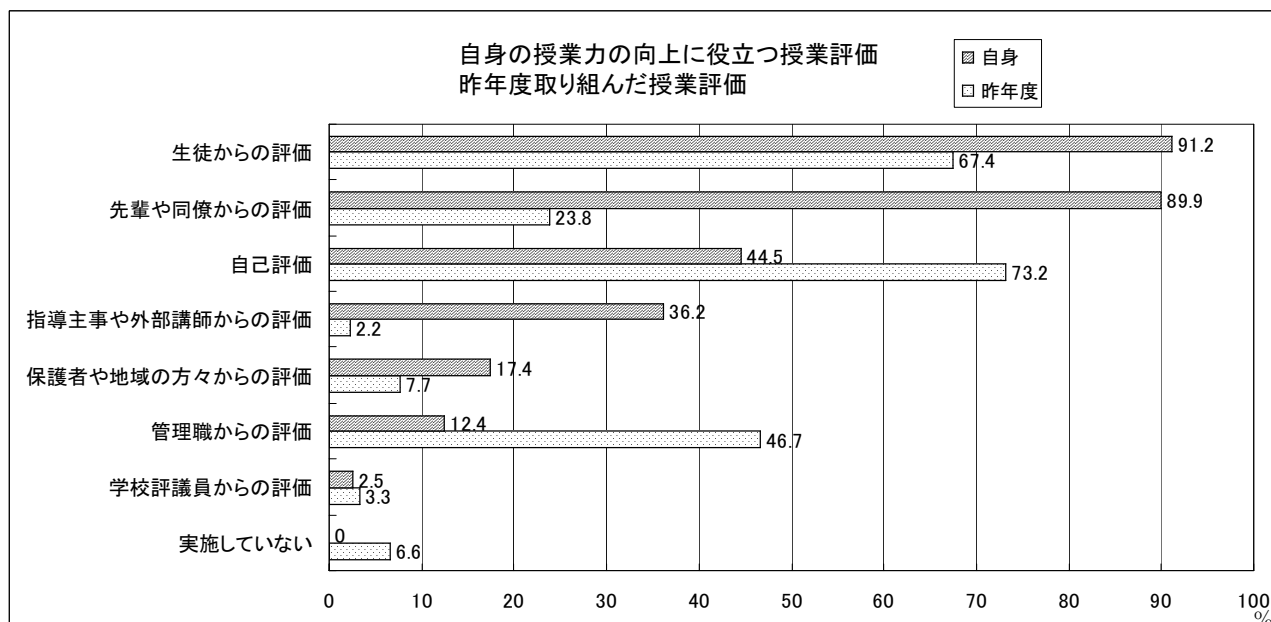


しかしながら、「教職員同士の話し合いを伴う授業研究会」を、約6割の教員が昨年度は行っていません。

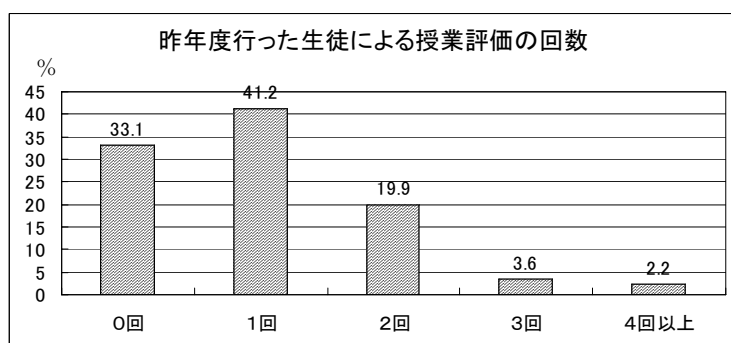
平成18年度に、小中学校の教員を対象に行った同様の調査における、中学校での「授業研究会」の実施状況は、0回が約3割、1回が約5割でした。「よい授業」のために「授業研究」が効果的であると認識しながらも、それが必ずしも活発に行われていない状況は、小中学校の調査でも明らかになりましたが、高等学校においては、更にその傾向が顕著でした。

誰からの授業評価が授業力の向上に役立つか？

- ★ 授業力の向上に役立つ授業評価は「生徒からの評価」「先輩や同僚からの評価」
 ⇒ しかし、「生徒からの授業評価」に比べ、「先輩や同僚からの授業評価」の実施率は低い。
 ⇒ 「生徒からの授業評価」の実施状況は約7割に達するが、実施回数は少ない。



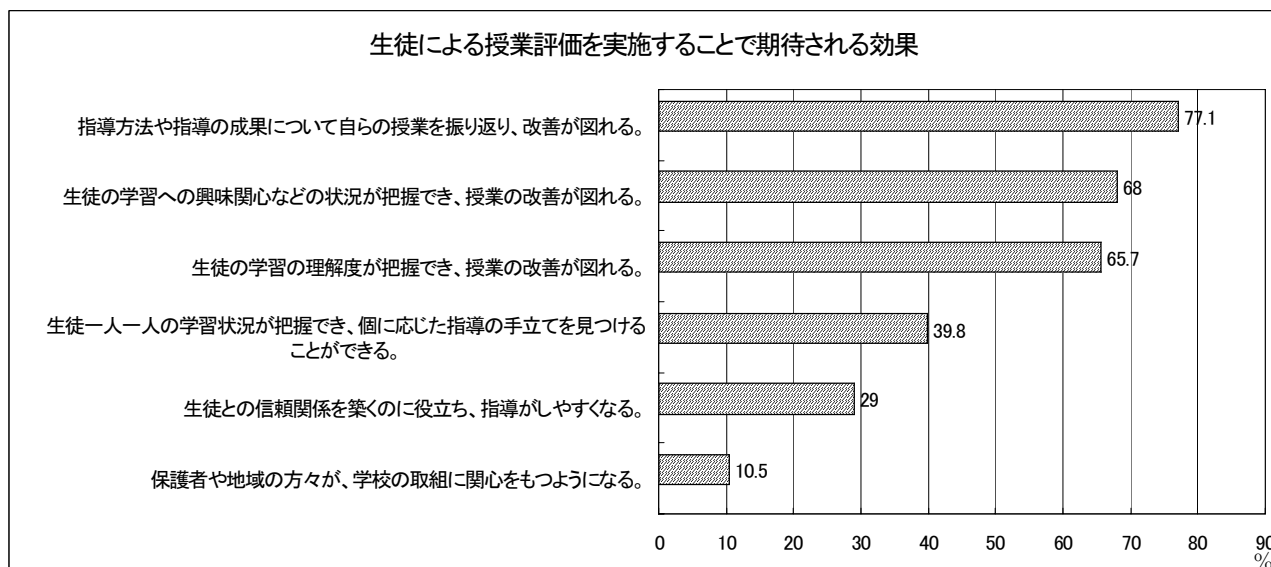
「自身の授業力の向上に役立つ授業評価」として、約9割の教員が、「生徒からの授業評価」と「先輩や同僚からの授業評価」と回答しています。しかし、昨年度の取組としては、「生徒からの授業評価」が約7割であるのに対し、「先輩や同僚からの授業評価」は約2割でしかありません。



また、昨年度の実施状況が約7割に達した「生徒からの授業評価」ですが、実施回数をみると、約3割が0回、約4割が1回、約2割が2回という状況でした。授業評価は、その内容や、実施後の生かし方が大切であり、実施の回数だけでその是非を判断できるものではありませんが、短いサイクルで授業の改善に生かすという視点から考えると、実施回数にも改善の余地があるようです。

生徒による授業評価によって期待される効果は？

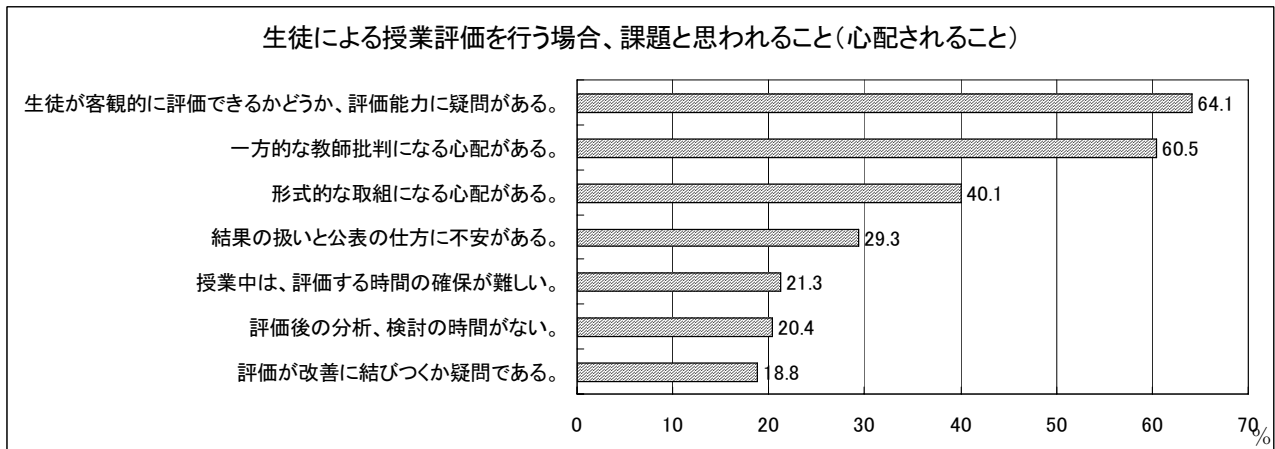
★「生徒による授業評価」によって授業の改善が図れることへの期待が大きい。



生徒による授業評価を実施することで期待される効果として、約8割の教員が、「指導方法や指導の成果について自らの授業を振り返り、改善が図れる。」と回答しています。また、約7割の教員が、「生徒の学習への興味関心などの状況が把握でき、授業の改善が図れる。」「生徒の学習の理解度が把握でき、授業の改善が図れる。」と回答しています。

生徒による授業評価の実施上の課題や懸念は？

★「生徒による授業評価」の実施上の課題や懸念としては、「生徒の評価能力への疑問」、「教師批判」、「形式的な取組」、「結果の扱い」などが挙げられている。



生徒による授業評価を行う場合の課題や懸念として、約6割の教員が、「生徒が客観的に評価できるかどうか、評価能力に疑問がある。」「一方的な教師批判になる心配がある。」を挙げています。次いで、約4割が「形式的な取組になる心配がある。」、約3割が「結果の扱いと公表の仕方に不安がある。」を挙げています。

2 授業評価に期待される効果と課題のまとめ

以上のように、「授業評価に関するアンケート」から、授業評価に期待される効果と課題が明らかになりました。

<p>「よい授業」のための効果的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ★授業公開 ★授業研究会 ★研修会 	<p>誰からの授業評価が授業改善に役立つか</p> <ul style="list-style-type: none"> ★生徒からの授業評価 ★先輩や同僚からの授業評価
<p>生徒による授業評価によって期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ★授業改善 	<p>授業評価を行う際の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ★生徒の客観的な評価能力 ★一方的な教師批判に対する危惧 ★取組の形骸化 ★結果の扱いと公表の仕方

これらの点を踏まえて、次ページ以降の章を以下のように展開します。

第2章では、授業研究の新しい視点として、**授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会**について紹介します。

第3章では、4校の調査研究協力校における、**授業評価を生かした授業の改善とワークショップ型授業研究会の実践**の例を紹介します。

第4章では、組織的に学力向上に取り組むための**校内研修**について提案します。

第5章では、**目的別の授業評価シート**の例を紹介します。